

## 女子教育の道

かし子——若松賤子は、明治の初めのすぐれた女子教育者として、また明治初期の翻訳家として、キリスト教文学者として、それぞれりっぱな仕事を残しました。

フェリス女学院卒業後、母校に残つて後輩を教えることになつた賤子は、もう、昔のかし子のようないじけた少女ではありませんでした。

そのころ、社会の中で女子は低い地位しかあたえられていなかったのですが、新しい時代に生きる女子は、もつと勉強して、自分で社会を生きていく力をつけなければならぬと、賤子は考えました。生徒たちを集めて『時習会』という勉強会を開いて、いつも休まず勉強することの大切なことを教えようとしま